

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	平成 29年 9月 19日	評価結果市町村受理日	平成 29年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は百合が原公園に隣接しており、自然環境に恵まれている。ホーム内は天井や廊下が広めに設計されており入居者一人ひとりが、ゆったりとマイペースで過ごすことができる。各居室には洗面台とトイレが備え付けられておりプライバシーにも配慮している。地域(町内会、百合が原公園、児童館、等)との関わりも多く、それぞれの行事や活動を通して活気ある生活が送れていると思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0170201594-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。向かいに百合が原公園があり、JR百合が原公園駅も近く、利便性に優れている。共用空間が広く、居間は吹き抜けで天窓があり、窓が大きく明るい。絵画や利用者と一緒に作った貼り絵作品などを数多く掲示し、楽しい雰囲気となっている。各居室も広めで、個々にトイレが設置されプライバシーを保ちやすい。法人全体の指導のもと、各種のマニュアルや書式が整い、教育体制も充実している。職員同士の協力体制や人間関係も良好で、管理者を中心にお互いに意見が言いやすく働きやすい職場づくりを行っている。地域との関係では、町内会行事の参加や百合が原公園での花植え、福祉施設の児童との交流など、多様な関係作りができています。介護サービスの面では、定期的な課題分析、介護計画見直し時の書類の整備などが進められ、日々の記録も計画に沿って行われている。医療面では複数の科目の往診が利用でき、必要に応じた通院支援も行われている。外出支援の面では、日々の散歩や買い物のほか、年間を通じて行事を企画し、花見や紅葉狩り、雪まつり見物などを行っている。職員が利用者に優しく丁寧に接しており、利用者が穏やかに過ごすことができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所独自の理念があり、全職員が目にしやすい施設玄関に掲示している。	事業所独自の理念を掲示し、内部研修で年1回、内容を確認している。また、法人のグループホーム部門共通の理念の中で「社会的緩和(地域と共にあること)」を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公園での花壇造りや託児所の子供達との交流、町内会のお祭りへの参加など、恒例化している行事が多い。	利用者と一緒に町内会のお祭りに参加したり、百合が原公園の花植えを手伝っている。裏にある福祉施設の児童とも年に数回交流している。フラダンスのボランティアの来訪も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域活動の参加の場において、施設の特長や利用者の様子を伝え、認知症の理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議が定例化されており、施設でのサービスや利用者状況などを議題に取り上げ話し合っている。参加者からの意見も聞くことができ今後の取り組みにも活かしている。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター等の職員や町内会副会長の参加を得ている。家族は代表者1名の参加である。防災や外部評価、口腔ケア、事故対応などのテーマで意見交換し、議事録を家族に送付している。	家族のより幅広い参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。また、参加が難しい場合も事前に意見を得て、会議に反映することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市や区の管理者会議において、地域包括支援センターの職員と関わる機会があり意見交換などにて協力関係が築けている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を受けている。市や区の管理者会議でも情報交換している。最近では生活保護の方の金銭管理について役所に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット内研修の議題に取り入れており、日々職員同士で注意を払いながら身体拘束をしないケアに努めている。又、防犯予防の為、夜間は玄関の施錠をしているが、それ以外は行っていない。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を記したグループホーム協会の小冊子を参考に、年1回ほど内部研修を行っている。玄関は日中施錠せず夜間のみ施錠している。センサーのほか、玄関ホールに事務所があるため、利用者の出入りは把握しやすい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣介助時には全身チェックを行い、虐待が見過ごされないように注意を払っている。普段の話題においても「これは虐待にあたらぬか？」と取り上げ、防止に努めている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別な研修の場を設けてはいない。今後は地域包括支援センターの職員に依頼し、学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身体的な理由で契約の解約となることが多いが、入院中からの退居であれば医師や相談員、家族との今後の方針や入所先を相談して納得されてからの解約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを実施し、アンケートは無記名のうえ返信先が本部となっている為、家族は遠慮せず何でも意見や要望が書きやすくなっている。結果は職員全体に周知している。	家族の来訪時に意見を聞き、得られた意見や要望を連絡ノートで共有している。また、年1回、家族アンケートを実施し、結果を踏まえ、行事の情報提供について改善を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常業務時において、スタッフの要望や意見を収集し、統括管理者に伝えている。又、職員用アンケートの実施を行い、少しでも改善に向けて努めている。	毎月、ユニット会議を開催しており、職員の意見を現場で反映している。年1回、統括管理者と職員の面談を行っている。職員は、行事や室内装飾などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤業務の実態調査を行い給与の見直しを行う等、少しずつ改善に努めていっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの研修参加が中々難しい為、月1回ペースのユニット会議内において短い時間ではあるが毎回議題を決めて内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の研修会や、法人内での管理者会議において学んだり、意見交換ができる場があるが職員は中々、そのような機会がないのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、入居するにあたり不安なことや希望を聞き入れ対応するように努めている。又、家族や担当者に少しでも多くの情報提供をしてもらい実態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談～入居に至るまでに家族とは密に連絡をとったり、必要あれば訪問や来所をしていただき不安なことや希望を聞き入れ少しでも対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居間もない時期には、なるべく家族の面会を多くしてもらい新しい環境での本人の不安や希望に対処できるよう対処している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の家族や生い立ちを話題に出すことで、親近感を感じていただき職員と利用者との距離が縮むよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時の状況に応じて、面会や受診の付添をお願いする時がある。又、週に1回ペースで家族とのショッピングを行っている利用者もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで出掛けた際には、その方の家や家族の家を通ったりして、馴染みの関係が途切れないよう配慮している。	各ユニットの数名の利用者に友人が来訪しており、友人と一緒に外出に出かける方もいる。利用者の電話や手紙のやり取りも支援している。住んでいた場所近くのスーパーに果物を買に行ったり、家族と行きつけの美容院に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの交友関係や認知の程度を把握し、普段の過ごされる場所や食事席などに配慮している。又、利用者同士の交流が困難な方は職員との関わりにより孤立を防いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は自然に疎遠となりがちであるが、家族や入居先からの相談があれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格や趣味、生き立ち等からその方がどのように過ごしたいかを把握できるよう努めている。又、気持ちを伝えるのが困難な方は表情に注意して対応するようにしている。	ほとんどの利用者は言葉で思いや意向を表すことが可能で、難しい方の場合も表情などから把握している。6か月ごとに利用者ごとの課題分析概要を作成し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報収集を行い、これまでの暮らしの様子を把握するように努めている。又、入居前に他サービス利用があれば、そこからの情報も求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や日々の申し送りなどにて情報を共有するようにしている。又、連絡ノートや議事録により全職員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前より本人や家族の意向を聞き、暫定の計画書を作成し1週間～10日を目途に本プランを作成している。	3か月毎に介護計画を見直ししている。カンファレンスで評価を行い、意見を集約して計画を作成している。また、カンファレンス記録も整えている。日々の生活記録も計画を参照し、番号を記入しながら記載し、次の計画に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のアセスメント記録に記入しており、引継ぎやスタッフ会議にて情報を共有して、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情により困難な対応(受診や買い物等)や、個別に応じたサービス(余暇活動や外出など)を臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園での花壇造りや、児童館のお祭り(中庭を提供)にて子供達との交流が恒例となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より本人や家族には協力病院との協力体制を説明している。希望や状況によっては他医療機関への対応も柔軟に行なっている。	ほとんどの利用者が協力医療機関による内科、精神科の往診を受診している。他科目や個々のかかりつけ医も必要に応じて通院を支援している。個人ごとの受診記録を作成し、共有している。	

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの訪問看護が週に一回のペースであり、利用者の状態報告を行っている。訪問以外でも変化があればいつでも24時間相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は看護師や相談員、医師と連絡を取り、状態把握をして退院に向けた話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については入居時に家族に説明している。そのような時期が近づいた時には医師や家族との話し合いの場を設け今後の対応を話し合っている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明して同意を得ている。実際に重度化した場合は協力医療機関に入院となる場合が多く、利用開始時にその旨を説明している。事業所での看取りは経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や内部研修にて取り上げている。法人内にて救命講習を開催する予定ではあるが、全職員が受講するに至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には町内住民の方に協力してもらおう呼び掛けており緊急通報システムにも登録していただいている。又、定期的に防災対策委員会を開催して災害対策に取り組んでいる。	昼夜を想定して年2回の避難訓練を行い、消防署の協力も得ている。最近では地域住民の訓練の参加は得られておらず、救急救命訓練も定期的受講できていない職員もいる。災害時に必要な備蓄品はリストに沿って用意している。	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。また各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室トイレにはカーテンを設置して、一部介助が必要な方の排泄中はカーテンの外で見守りを行うなどプライバシーに配慮している。	呼びかけは本人や家族の希望で名字や名前に「さん」をつけている。トイレ誘導も「お部屋へ戻りましょう」「歯を磨きましょう」と自然に声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定できる方には、その日に着たい衣類を決めてもらうようにしている。普段の会話の中でも食べたい物、行きたい場所などを聞いて希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など大まかな日課の時間は決まっているが、その日の体調などにより時間や曜日をずらすなど臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装が同じにならないよう配慮し自己決定できる方には選んで頂いている。化粧をされる方には誕生日プレゼントにマニキュアなどを取り入れている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、行事や本人の誕生日には嗜好に配慮し出前をとったりメニューの変更を行っている。	メニューと食材は契約業者から搬入されるが誕生日や季節の行事など内容を変えて好きな食べ物に変更している。庭でバーベキューをしたり外出の際の外食も利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事・水分量のチェックを行っており個々の必要摂取量を目指している。又、一人ひとりの状態に応じてキザミやお粥にしたり配膳量にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な方には毎食後、義歯洗浄と口腔ケアを行っている。又、定期的な歯科往診があり口腔ケアやトラブルにも対応してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や引き継ぎにより、一人ひとりの排泄状況を把握している。それによりトイレ誘導の時間や回数工夫し、なるべくトイレでの排泄を目指している。	各居室にトイレが配置されている。半分ほどの利用者は自分でトイレに行くことができ、利用者の状況に応じて介助を行っている。排泄状況を記録し、パターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分の促しと体操の参加を呼びかけている。数日排便が確認できない場合には医師に相談して整腸剤や下剤の処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日に入浴されるメンバーは決まっているが、一人に対しての入浴時間を多く確保できるよう入浴順やメンバーに配慮している。都合により入浴できない方には翌日に入浴してもらえるよう調整もしている。	一人平均、週に2度程度、職員の見守りで楽しく会話をしながら入浴剤を使った湯で楽しい入浴時間になっている。拒否のある場合は無理強いをせず、時間や曜日の変更で気分をかえて入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの身体状況や生活習慣に応じて休息をとっていただいている。又、夜間の睡眠に支障が生じないよう配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作成し、全職員が服薬状況を確認できるようにしている。又、連絡ノートや受診記録により薬の目的や変更の経緯などを伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好みに応じた活動(ちぎり絵、パズル、ビデオ鑑賞等)を提供し、気分転換を図れるよう支援している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突発的な外出希望には対応できない場合はあるが、行きたい場所をバスレクに取り入れるなどし希望に添えるよう努めている。	冬期間は通院の外出が主であるが、それ以外の時期はドライブで小樽の朝里ダム、桜や紅葉見物に厚田の戸田記念公園、北大のイチョウ並木や篠路神社に出かけている。日々の散歩や買い物等も利用者の希望で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し自己管理可能な方は支障がない程度の金額を所持している。預かり金の入金も本人よりしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方には使用方法の支援を行っている。遠方の家族より定期的に絵葉書が届きそれを居室に飾る支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じて居室電気の明るさを調整して良眠できるように配慮している。空調システムの不具合で施設全体の温度調整が上手くいっていない為、各居室にはストーブを設置して対応している。	広く明るい居間から庭が一望でき、季節の移ろいを感じられる。利用者が集い職員と会話している笑顔がみえる。壁には利用者の作品で大きな貼り絵を飾ってある。天井も高く明るいので広々と感じ、共有空間はどこも綺麗に清掃されており居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの性格や交友関係を把握し過ごされる場所や食事での席等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族と相談し、本人にとって危険が予想される物や本人にとって必要な物を見極め、なるべく今までの生活の延長で入居ができるよう配慮している。	トイレと手洗いが備えられ、ベッドも用意されている居室は、使い慣れた物品を持ち込み、テレビ、アルバム、家族の写真や仏壇が置かれている。利用者ごとに安心して過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に合わせ手摺りの位置やテーブルの高さに配慮して一人ひとりが安全にスムーズに生活できるよう対応している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	平成 29年 9月 30日	評価結果市町村受理日	平成 29年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は百合が原公園に隣接しており、自然環境に恵まれている。ホーム内は天井や廊下が広めに設計されており入居者一人ひとりが、ゆったりとマイペースで過ごすことができる。各居室には洗面台とトイレが備え付けられておりプライバシーにも配慮している。地域(町内会、百合が原公園、児童館、等)との関わりも多く、それぞれの行事や活動を通して活気ある生活が送れていると思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kani=true&JigyosyoCd=0170201594-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット研修で、社会福祉理念からのふぁみりあ理念という繋がりを研修している。また、ユニット目標については、日誌に添付しており共有できるようにしている。室内の目につきやすいところにも理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りに参加、地域の子供たちの七夕の集いや、町内会のお祭りに参加、百合が原公園との花壇の苗植えは継続できている。近隣の児童発達支援事業のデイサービスのお祭りに中庭を開放し交流も盛んになった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も同様に高齢者と子供たちとの交流が図れた。運営推進会議では、認知症高齢者との理解がはかれるように副会長さん通じて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施している。事故発生件数の推移の資料を作成し討議、提案、助言をもらった。参加人数は定例であり、多くの参加は難しかった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市連絡会や、北区管理者連絡会などの定期的に参加をして、札幌市の情報提供等や、行政通達の案内をユニット間で提示できるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議でも実施しており、身体拘束と人権の尊重と権利擁護について研修を実施している。また、各スタッフに「認知症」と「人」の権利をみんな考える小冊子を配布して身体拘束をしないケアに努めている。出入口には施錠することなく生活しているが、夜間は防犯上のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議での話し合いでも、日々の業務中でも、禁止事項に繋がらないか職員同士確認する事を怠らず、利用者側からの目線で配慮しているかを検討している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している利用者もおり業務上学ぶことが多い。見学等家族の相談を受けた時は、相談窓口の紹介や今後の不安はないのかの確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に事前に見学をしていただきホームでの生活の様子を知っていただくようにしている。契約説明時は契約文読むだけでなく、わかりやすく説明できるように務めている。契約変更等があれば、文書及び説明をしてご理解いただけるように配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の流れを入所時に説明し提示している。意見箱の設置と、面会時は家族からの意見や要望がないかの確認をしている。意見等があれば、取り組みについての検討を早急にして説明とご理解を頂いている。アンケートの配布もおこなっており、今後の運営に活かせるように話し合いを行って		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ごとにユニット会議を行っており、業務上での話し合いやスタッフの意見を取り組めるようにしている。管理者会議での内容を徹底できるように、会議録配布と説明をユニット会議で話し合いをしている。業務改善では統括管理者の参加もあり周知を徹底している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成に関して休み希望を制限せず、勤務表を作成している。家族環境に配慮して、急遽の休みでも対応できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット研修を月ごとに実施しており、研修資料について各自に配布し確認できるようにしている。外部研修は人員不足から参加は難しかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区管理者連絡会議の場での交流はあり、定期的に参加している。情報交換、事例検討などを行い質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前で利用者が不安であることを確認して、利用者の生活リズムが崩れないように配慮している。家族からは、利用後の様子などホームでの生活を報告し家族からも助言を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに寄り添うように、初回のインテークを通じて利用前の不安や利用後での様子を詳細に報告している。利用後は落ち着いてからも状況等を報告するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時は、本人の生活状況で困っている事家族も含めて、他のサービス利用などケアマネジャー、病院職員、施設職員との連携をとり包括的に相談を受けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者目線を忘れず、一緒に過ごすということ話しをしながら、同じことの繰り返し言葉にも感情や気持ちが必ずあるということを忘れないように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を家族に話したり、地方にいる家族の方には、手紙、メール、電話を通じて関係が継続できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始は友人の来訪もあった。馴染み深い関係の方には、電話やお手紙で返信をしている。地方に住んでいた方は家族と外出・外泊等して馴染みの場所に行く時もある。外出行事で利用者の以前勤めていた場所に出向いたりお盆の時には家族協力のもとお墓参りに行き近所の方や友人の来訪もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互いに何気ない思いやりの気持ちを持ち過ごしている。車椅子の利用者には通路を譲ったり手の冷たい利用者に手を握る姿も見られる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、家族の精神的な緩和や利用者の身体状況を確認したり、相談が継続できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや意向をケアプランに反映できるように努めている。ケアプラン上では本人の言葉、家族の希望を課題にあげて目標達成できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活での暮らしの中で本人・家族から話を聞いたり、疾病からサービス利用での状況等を相談員より確認して把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の記載には、日々での生活の様子。身体状況や受診時については、受診記録に記載して、訪看、医師と連絡をかせないように連携をとっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議でモニタリングを行いケアプランに繁栄できるようにしている。利用者、個々の言葉や思いを再度、職員、家族が共通認識ができるようになっている。必要時は家族に相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・受診記録があり、職員がいつでも閲覧できるようにしている。特に必要な特記事項は、申し送りノートに記載し全職員共有できるように努めている。記録には、利用者の思いが共有できるように言動を記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々生まれるニーズについて、個人記録及び申し送りノートに記載して、情報の共有ができるように行い、その都度生まれるニーズについては、職員や家族間とも連携がとりながら取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を通じて公園の散策や近隣の子供達の交流、町内会の参加もしている。地域資源との協働を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前、主治医の確認をして、協力病院に変更するかを確認している。在宅生活より利用していた。かかりつけ医を利用している方もいる。内科往診2回、精神科往診2回、訪看が週1回、歯科週2回、体調に変動があれば、家族に確認に受診等をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週一回訪問看護があり、その都度体調変化などを看護師に相談し必要があれば、受診できるように体制をとっている。また、利用者の生活指導への助言も受け訪問看護記録が閲覧できるようにしている。緊急時には24時間看護師と連絡がとれるようになっている。緊急時での連絡も日誌に提示している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医、看護師、相談員と連携をとり今後についての話し合いをしている。退院後はADL低下もみられるため、リハビリの実施や体調について看護師に相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況については、早い段階で医師、家族に相談をして今後の対策や身体状況の変化の予測をできるだけ家族に話し相談するように努めている。また、家族が不安を感じる時は医師、看護師同伴のもと今後の話し合いについてすることもある。重度化が進んだときも同様に家族相談や入院治療及び特養の申請等を含めて様々な視点で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時でのマニュアルはいつでも確認できるように、日誌に添付している。状況に応じて救急対応を優先するように、両ユニットが連携がとれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を実施している。簡易ストープの設置をしている。非常用持出袋の置き場所も全職員が周知できるように徹底している。防災対策委員会も定期的にも実施している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の生活リズムを把握して、居室に居る時間やみんなでいる時間を精神状況に応じて対応できるようにしている。言葉がけも一人一人に合った声かけで強い口調にならないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話から引き出せるように見守りをしている。日課の参加も強制せず、体調、気分、精神状況に応じてその都度対応している。入居者同士が協力して歌を唄って過ごす時間帯もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて体調や気分に合わせてながら、その日での生活をどうしたいかを聞いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、身だしなみができるように声かけ、介助を行なっている。起床時は、利用者のペースに合わせてながら整容ができるように支援している。月1回訪問理容がある。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の禁嫌食の把握とともに、食器の大きさ等個々に合わせて配慮している。食器ふきやテーブル拭き等は特定入居者ではあるが手伝ってもらうことも多く定着している。ミキサー食の方に対しては食事内容の説明と彩りをつけて食事を楽しんで頂けるように配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食事が違いました、栄養が摂れるように医師、看護師と相談している。水分量、食事は記録記載して、把握に努めている。入居者には体重増加の方もあり、食事量の変更と主治医から指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の理解力に合わせて促し、介助を行っている。歯科衛生士による訪問ケアを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間は一人一人時間帯も異なる為、必要な方には声かけ誘導をしている。疾患も持つ方トイレの回数等は夜間、日中共記録に記載し回数や尿量等の確認をしている。夜間帯では睡眠時間に影響がでるため、内科、精神科に相談をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の希望にて、果物を食べる方もいる。牛乳は朝飲用する習慣があり、自然排泄に繋がるように努めている。食事量や水分量を確認しているが、特に水分量が少ない入居者には言葉がけをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人体調や気分に応じて入浴をしてる。長めの入浴を好む方もいるため体調に配慮しながら支援している。入浴拒否の方には曜日に関係なく声かけをして、現在では入浴の回数は増えてきている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎晩入眠前に仲の良い利用者同士が居室やサンルームで過ごしている。テレビ視聴を好む方はチャンネル等を合わせて見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容については、認知力に応じて往診時に先生と話し合いをしている。再度薬の説明をわかりやすく話し服用について理解していただいている。症状の改善等があれば、医師や看護師と話し減量に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人に合った役割である仕事ができるように、声かけをして軽作業など行っている。気分転換を兼ねて買い物支援も行っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時、中庭に出て家庭菜園の作物の出来を見たり、椅子に座って会話を楽しんだり歌ったりしている。町内会、神社の祭り、お花見など季節に応じて外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の認知力に考慮して、家族と相談のもと少額管理している。少額管理することで安心感があり、買い物時は金銭の出し入れを自力でしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や思いに添って手紙や電話のやりとりをおこなっている。地方に家族がいる方は時々連絡もあり、こちらからも連絡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、サンルームなどにソファを設置し、利用者同士、職員、家族くつろいだり広い廊下では廊下歩行練習をしたり、途中休みながら利用者同士が会話を楽しんでいる空間もある。壁には行事での写真を定期的に張り替えたり、季節の行事を飾ったりしている。季節感を感じてもらえるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファやサンルームのソファは、居室以外でも一人になれる空間があり、本を読んだり、新聞を読んだり利用者同士でも過ごせる空間になっている。座席も固定せず利用者の思いに配慮して席替えをしたり、孤独感を感じないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活から使い慣れた家具等を置いて頂いたり、家族写真や思い出の写真を貼ったりしている。居室には鉢植えや思い出のある人形を飾ったり仏壇を掃除し手を合わせる家で日常的に行っている事を自然にできるように援助している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広く、手すりを設置し、室外では車椅子使用の方も、室内では、歩行器を使用したり、つたえ歩き、自力歩行の方もいる。身体機能に応じて、移乗バーも設置している。自力歩行意欲を促す為、声かけや促しを適切に行っている。定期的に歩行練習をおこなっている。利用者もいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟

作成日：平成 29年 11月 2日

市町村受理日：平成 29年 11月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、家族の参加が代表者1名のみ参加状況である。	特定の家族に限らず、より多くの家族の参加を目指す。	家族の満開時や案内文の送付により、開催の予定を早く報告し、なるべく多くの家族が参加していただけるよう呼び掛ける。	H30・3月
2	35	避難訓練において、ここ最近、地域住民の参加がえられていない。又、救急救命講習を3年に1回、受講できていない職員がいる。	毎年の避難訓練において、地域住民の方の参加が恒例となる。	町内会の催し物や運営推進会議において、町内会長さんをはじめ地域の方々に避難訓練の参加や協力が得られるよう呼び掛ける。救急救命講習においては、上司に相談して法人全体で参加できる機会を持ちたい。	H30・12月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。